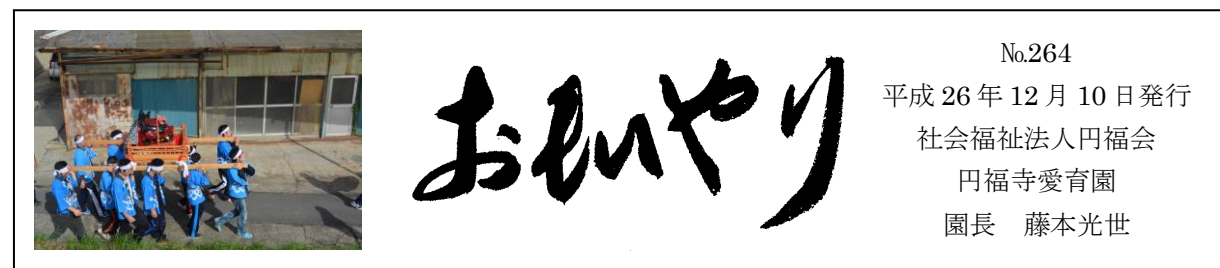


<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

愛育園祭開催に先駆けて、お神輿を担いで村中を練り歩きました。



行事…子どもを変えるもの

園長 藤本光世

11 月は愛育園祭と乗り物体験の二つの大きな行事がありました。今月号は、その二つの行事特集です。行事には二つの願いがあります。

一．行事の経験を通して、子どもが伸びるものであってほしい。それは、どんな行事でしょう。子どもが全力で取り組む行事です。小さな子は小さな子なりに、大きな子は大きな子なりに、心を開き全力で取り組むのです。大きな子にとっては、自分の限界に挑戦して可能性を伸ばす場合があるでしょう。あるいは、職員とともに行事を創造し小さな子を喜ばせてあげる、そんな喜びを感じる場にもなるでしょう。

逆に言うと、子どもが心を開かない、全力で取り組まない、そんな行事は養育にマイナスに働くのです。施設運動会のおちゃらかした、お面をかぶってのダンスなどを見れば分かるでしょう。

二．普段の生活に結びついてほしい。行事で子どもの心が満たされ、あるいは変化してもそのままにすれば、元に戻ってしまうのです。それを、普段の生活に生かす。職員にはそのような子どもとのかかわりが無ければなりません。行事が終わったら、そこで終わりではなくて、行事の時の子どもの様子を題材にし、心に秘めて子どもと関わる。子どもの普段の生活の心を向上させる。目的を目指し、自分から生活のレベルを上げる。心のレベルを上げる。そのような係わりを職員は努めなければなりません。

職員が自己満足で安心してしまっっては、お金をかけて行事をした意味がないのです。

愛育園祭は、子どもと職員が創り上げた行事でした。最後の全員演舞の「ソーラン」に、私は感動しました。愛育園運動会の応援合戦よりずっとレベルが上がって、動作も素晴らしかったです。思わず「アンコール」を叫ぶと、衣装を脱ぎかけていた子ども達が、演題に駆け上がり、再び素晴らしい演舞を披露してくれました。

乗り物体験は、どちらかという職員が創り子どもはそれに乗る形でした。遅くまで時間をかけて準備した職員の仕掛けに子ども達は応えて、楽しんでいました。こちらも、昨年よりレベルアップしました。

職員や子ども達の文から、二つの行事の様子をご覧下さい。

(平成 26 年 12 月 10 日発行 月刊「円福」461 号付録 昭和 52 年 5 月 25 日第三種郵便物認可)

愛育園祭を終えて

副園長 青谷 幸治

今年で愛育園祭も 17 回目になりました。児童の行事としても定着し今では職員だけではなく児童自ら作り上げる行事になりました。理事の方々、地域の方々、学校の友達や先生、関係機関の方々に日ごろの感謝の気持ちを込めて行いました。主役は子どもたちです。自ら参加し積極的に愛育園祭を作り上げ、盛り上げることができました。

お神輿、善光寺木遣り、開催宣言、書道パフォーマンス、幼児劇、ソーランと児童の休む暇もなく自分の持ち場に責任をもち真剣に取り組む姿に涙が出るほどでした。職員の頑張りが子どもたちの心を打ち、自然と頑張る子どもが増えたことで素晴らしい行事ができました。子どもの生きる環境を整えることで子どもの本来持っている純粋で素直な心が順応することがわかりました。職員の、子どもの心を育て自立させる気持ちが大きいほど、子どもたちはその気持ちに応えいつも以上の力を発揮できることもわかりました。

子どもたちには「手を抜かず何でも頑張れ」とやり抜いた人でないと自分の力を知ることができないことを行事を通して伝えてきました。また行事でやり遂げた体験を何気ない普段の生活（早起、お参り、挨拶、食事を摂る、学習、登校するなど）に生かすことが大事だと思いました。また来年、より一層素晴らしい行事と子どもが活躍できる場を作っていきたいと思います。ご協力ありがとうございました。

感動のソーラン節

保育士 あおぞらホーム長 富沢正樹

11 月 2 日に愛育園祭が行われました。

愛育園祭前の一か月、私自身が心に強く感じていた事がありました。

今年度、4 月から数えて 8 か月。子ども達は本当に大きく成長してきました。人として備わってほしいと思う「あきらめない心」「感謝の心」「協調性」「向上心」等、あげればキリが無いですが、そういったものを園での日々の生活や行事を積み重ね続けてきた結果、もはや別人では？というくらいに子ども達は身につけてきています。だからこそ、「今、愛育園で生活している全ての児童を、関係のある全ての方々に見てもらいたい、、、」そんな思いが生まれ、それはそのまま私の愛育園祭のテーマとなりました。

「どんな事をしたら、子どもの成長を伝えられるだろうか？」を基にアイデアを出して、準備・練習がスタートしました。

私が大きく担当した所は発表の部なのですが、小学生と中高生の男子とで「ソーラン節」を踊る事をメインに決め、毎日練習をしました。小学生 1 年生から高校 3 年生まで総勢 25 名程の大所帯。当たり前ですが、始めからはうまくはいきません。膝を深く曲げるなどのダイナミックな動きが見所のソーラン節ですが、難しいのと恥ずかしいので、動きが良くありません。また、普段関わりの少ない小学生と中高生ですから、互いによそよそしくて遠慮が見られます。ただ、心配はしません。誰かがそんな空気を吹き飛ばしてくれる事はわかっています。するとやっぱり、ある子が綱を引き

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

上げる動作を凄まじいキレの良さで踊り始めます。小学生はそれを見てマネを始めます。他の中高生はそんな小学生を見て「情けない姿は見せられない」とばかりに真剣に踊りだします。すごい事だと思います。何を言わなくても、だらしなくやったり、恥ずかしがってやっていたは満足する結果は得られない事を自分達で気づけてしまうのです。さらに嬉しい事に、今回空気を一新してくれたその子は普段人前にでたり、率先して何かやるような子ではなかったのです。

また、毎日練習したといっても、実質、全体練習は 30 分ほどの時間でした。にもかかわらず、日を追うごとにキレの良い動きをする子が増え、きっと自主練習もそうとうやったんだろうと思います。「この心のあり方を当日来て下さった方々に見てもらいたい。」と私もやる気が高まります。

さて本番当日はというと、皆が膝を大きく曲げて迫力満点のソーラン節を披露することが出来ました。その後の歌やダンスもばっちり成功して、アンコールまで頂きました。見て下さった方々の驚きの声や称賛の拍手を聞いて、みんな、誇らしげな顔をしていたのが印象的でした。



今回の愛育園祭ですが、素晴らしかったのはソーラン節だけに限らず、他にもたくさんの児童の努力が見られました。入場口に花紙を敷き詰めたトトロとその脇にネコバスを製作したのですが、何百個もの花が必要で、見た目の派手さと裏腹に地味な作業を必要としたのですが、中学 3 年と 2 年の兄弟が「幼児さんを喜ばせたい」と一生懸命に作り上げてくれました。オープニングでは恒例

(平成 26 年 12 月 10 日発行 月刊「円福」461 号付録 昭和 52 年 5 月 25 日第三種郵便物認可)

の木遣りを行いました、ソロパートの 3 人は高校 3 年生が担当し、声量と独特の節に苦労しながらも練習を重ねて堂々とやり遂げました。小学生は歌の発表で、緊張しながらも大きな声で歌うことが出来ました。そんな小学生に、中高生は歌の最中ずっと手拍子をしてくれました。当初予定に入れていなかったのですが、「切り絵」の作品を飾りたいと、ある児童から申し出があって、結局、何人もの児童が作品を作ってくれました。後片づけも全員で一気にやってしまいますから、あっという間に終わってしまいました。

これまでの集大成として自信を持って愛育園祭が出来た事、愛育園祭で更に自信が付いた事。今後の生活への大きな糧となった愛育園祭でした。



<http://enpukuij-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

当日、ご来園下さった皆様、本当にありがとうございました。

愛育園祭 ～書道パフォーマンス～

まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織

愛育園祭の時期に近づいてくるたびに、中高生の女の子から「今年も書道やるでしょ？」という声がいくつか聞こえてきました。去年から始めた書道パフォーマンスは思っていた以上に子ども達も楽しかったようで、「今年もやりたい!!」「今年のテーマは何にするの?」という会話がチラホラ…。そんな子ども達の様子を見て私自身嬉しくなりながらも今年のテーマはどのようにしようかと考えていました。去年の愛育園祭から今日までの子ども達の様子を振り返ってみた時、真っ先に思い浮かんだ言葉が「成長」でした。今回のように行事を通して、積極的に動いてくれる子どもが増えたこと。例えば愛育園大運動会では本当に応援団なんて出来るのだろうか?と不安に思いながらもやり遂げ、楽しかった!!と言える子どもが増えた事……。一つ一つ振り返った時この1年、みんな一生懸命何事にも取り組めるようになった子どもたちが増えたように感じました。今年のテーマは「成長」しかない!!と思い、子どもたちへ伝えました。ただテーマが決まっても周りに書く文章は決まっています。その為、アンケートを作り一人ずつ自分のどんなところが成長したかを振り返りながら書いてもらうことにしました。アンケートを見てみると、人の話を素直に聞けるようになった、少しずつ周りに合わせられるようになった…。など自分のいいところをしっかりと見つけており、嬉しくなりました。あとは高校3年生を中心に作品の構成を考えました。本番一週間前から、本格的に練習を始め一人ずつ担当の文字も決め、ほぼ毎日練習に取り組みました。一日ごとに上達する文字に子ども達もますますやる気になっていました。本番2日前から大きな紙を使いリハーサル。一人で練習している時とは違い、音楽や周りの人のタイミングを気にしながら書



かないといけない為、思ったより苦戦しました。一度目は全然音楽と合わせることができず、何がいけないのか、どこを改善すればいいのかを話し合いまた練習。その繰り返しをやっていくと、自然とタイミングも合うようになってきて、前日にはなんとか形にすることができました。本番は沢山の人の



(平成26年12月10日発行 月刊「円福」461号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

囲まれ少し緊張しながらも練習の成果を出すことができ、成功に終わることができました。愛育園祭の最後に子どもたちと慰労会をやった際、小6の女の子が「来年は書道を頑張りたい」と言っていました。今年で2回目の書道パフォーマンスだったけど、子どもたちにとっては、もうすでに楽しみにしている行事なんだと思いました。書道パフォーマンスが中高女子の恒例行事になるよう、また来年もいい作品をつくり上げたいと思います。

愛育園祭 児童感想

愛育園祭で嬉しかった事は、さいとう先生(担任の先生)に来てもらったことです。どうしてかというと、学校で約束したら本当に来てくれたからです。さいとう先生と愛育園祭をまわられて楽しかったです。

発表でソーランぶしをおどって、スマイルという歌も歌いました。ソーランぶしで大きな声を出しすぎて、のどが痛くなって、歌は大きな声で歌えませんでした。でも、アンコールをしてもらえて本当にうれしかったです。(小3 HA)

愛育園祭では、僕と弟で、花紙でネコバス作りしました。地区の人に楽しんでもらえて良かったです。

露店の係は射的の係でした。当日はすごい行列ができて、僕は他の所を見に行く時間が無かったけど、自分なりに頑張ることができました。

発表ではソーラン節をやりましたが、初めに言われた時は、時間もないし正直できると思っていませんでした。でも、なんとか完成させることができました。

本番では一か所まちがえてしまいましたでしたが、アンコールでおどったときにはしっかりおどることができました。



すごく、楽しかったです。(中3)

愛育園祭で思い出に残った事は、開催宣言をした事と、ネコバス作りと、ソーラン節です。開催宣言は、とても緊張して途中で言葉が出てこなくなってしまうました。

ネコバス作りはとても大変でした。2週間くらいかけて花紙を5000枚くらい使いました。正

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

直「もう作りたくない」と思ったけど、最後まで作りきりました。完成した時は嬉しかったです。ソーラン節も真剣に取り組めました。

心にのこった愛育園祭でした。来年はもっとハードルをあげたいです。(中2)

第3回 乗り物体験

保育士 あおぞらホーム長 富沢正樹

日頃、電車やバスを利用することの少ない児童達にその経験を積ませようと始まった乗り物体験も今回で3回目となりました。

この乗り物体験、ただ電車やバスに乗るだけではありません。毎回、お楽しみ要素を組み込んで、ストーリー性を持たせてやってきました。1回目は宝の地図探しの旅、2回目は食材探しの旅と題してやってきました。児童は心細さを感じながらもドキドキしながら与えられたミッションをクリアしようと頑張ります。

乗り物体験は、1回目と2回目で好評を博し児童の間ではとても楽しみになっている行事で、1か月も前になると「今年はどんなお話かな?」「新しい目的地あるかな?」「去年はトリコが題材だったか今年はワンピースかも?」といった期待を膨らませた会話が増えます。そんな期待に応えるべく計画した3回目の乗り物体験は「戦国妖怪物語」と題して行われました。内容はというと、、、タイムスリップしてきた戦国武将が悪い妖怪に人形へと姿を変えられてしまい、県内、県外のお城に飛ばされてしまった。そこで、児童のみんなには、その人形を回収してもらおうと共に、人形から元の姿に戻すための妖怪メダルを集めて来て欲しいというものです。

本番の1週間前には職員が戦国武将や妖怪に扮して劇を行い、このテーマと目的地などを伝えます。某人気アニメの影響も手伝って、みんなの理解は早く、メダルを入れる為の時計や行き先の書かれた巻き物をもらおうと小学生や幼児さんは大喜びしていました。

そして、その日から1週間かけて行き方を調べるのですが、今年は、中高生は全員、目的地まで一人で行くようにし、小学生も4人~5人のグループを作って職員の引率は無しで行くように計画しました。もちろんポイント毎に職員が立って子供の動向は把握しますが、それは児童には秘密なので、大方の子は不安で仕方ありません。場所的にも高遠城、春日山城、高田城、松本城、果ては草津温泉などの遠方ばかりを設定しましたから、難易度はさらに上がります。不安と期待がある中、小学1年生のある女の子は、私が高学年の子たちに上田城までの行き方を説明していると、その女の子も物凄く真剣な顔で話を聞き、高学年の子たちと同じように一生懸命に電車の時間をメモし



(平成26年12月10日発行 月刊「円福」461号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

ていました。後で、「大丈夫?」と声をかけると「こわいよ、一緒にきて」と、何とも不安そうに答えました。それでも一生懸命にメモをとるという事は「やってみよう、乗り越えよう」という気持ちの表れと感じ、「頑張ってみよう」と励ますと「うん」と元気よく答えてくれました。

いよいよ当日を迎えると、あいにく大雨からのスタートで、出発の所では少し混乱があったものの、大きなトラブルもなく(意外にも高校生の児童が道に迷うという事はありませんが)、全員が無事にメダルと人形を持ち帰って来ることが出来ました。

夕食後には人形から元の人間に戻すためのフィナーレに向かいます。持ち帰ったメダルが鍵を握り、誰か一人でもメダルを持ち帰ってこないで完結しない謎解きを用意しました。

謎を解き、無事に人形から元の姿に戻せた所で今回の乗り物体験は幕を閉じました。

その後の茶話会では子供からその日の様子を聞く事が出来ました。「迷って道を聞いた人がすごく親切だった」「恥ずかしくて人に聞けなかった」「4分しか乗り換え時間なかったけど間に合った」「焦って手前の駅で降りちゃった」など、自信のついた事、課題が出来た事、様々ですが、みんな良い経験になりました。「楽しかった」と言ってくれた児童がたくさんいましたので、来年も子ども達の日々の生活の励みになるような、楽しい乗り物体験行事を考えていきたいと思います。



乗り物体験

まごころ・そよかぜホーム長 石崎 早織

今年も乗り物体験の時期になりました。本番の一週間前に乗り物体験のオープニングを行い、最後に子ども達へそれぞれの目的地を発表しました。今年は一人で目的地まで行く子が多く、楽しみ半分、不安半分と言った表情をしている子どもたちが多かったように思います。当日を迎えるまでの一週間で目的地までの行き方などを念入りに打ち合わせしました。「とにかく困ったら誰かに聞く!!」「バスに乗る前にここは〇〇まで行きますか?と聞いてから乗る。」など困った時の対処法を繰り返し、子どもたちに伝え本番を迎えました。本番は朝から雨……。しかしそんなことなんて関係ないくらい子どもたちは出発を楽しみにしていました。今年は小学生も縦割りでチームを作り職員は誰もついて行きません。電車から子ども達だけになってしまいます。その為とてもドキドキしていたようです。また目的地に着けば終わりではありません。目的地に着くとミッションが待っています。そのミッションを全員が達成しないと乗り物体験は成功しません。巻物に書いてある地図を頼りにミッション達成を目指し目的地まで行きます。私の担当していた草津ではなんとか無事子どもたちが到着しミッションもクリアです。(以下正月号に続きます。)



愛育園祭でいろいろなことに挑戦!!

園内保育の子どもたちは、午後の発表のトップバッターでした。ステージの幕の中ドキドキしながら待つ子どもたち。まずは、年長さんによるXロディバル「ふりこ」の演奏です。Xロディバルは、うっかりすると音が鳴、これはいい箇所でも鳴、てします。また、指揮者の合図を見逃すと鳴らしてしまったり、緊張の中、集中して最後の音までしっかりと演奏できた年長さん、立派でした。

次は、幼児さん全員による、歌「ありさんのおはなし」です。かわいいありさんたちが登場し、手拍子を混ぜながら歌声を披露してくれました。

最後は、とれもんさんと職員による劇「おおきなかぶ」です。園内保育の「おおきなかぶ」には忍者が登場して、いくつかの修行をしてかぶを抜くパターをたてていきます。『ふんわり返しの術』では、かぶの前転や、個性的(?)な前転まで、その子らしさが出ています。『橋渡りの術』では、一人ずつ平均台を渡りまわります。練習では失敗の連続、年長のくん、緊張過ぎて本番で落下してはくじけずに渡りきります。最後の『忍者立ち』は、年番により完成度が違うため、全員が同じようにぴんと揃うとうまはきませんが、子どもたちなりに頑張ります。

集中が必要なXロディバル、手拍子を混ぜながらの歌、劇中の忍者としての修行。愛育園の発表を通して多くの挑戦をし、最後にかぶも抜けて、満足そうに子どもたちでした。



おちばひろい

今年のさつまいもは大豊作!! ということで“やきいも大会”を行いました。今回は園内保育で一番上のお兄さんお姉さんである年長児が準備のお手伝いをしました。与えられた任務は...!? 落ち葉拾いです。

いざ出発! 神社に着くと、辺り一面まるで落ち葉のじゅうたんが敷かれているようでした。『バリバリ』『カカカ』一歩足を踏み出す度にいい音がしました。子どもたちは事前にやきいも大会にはどんな葉、ばが必要か話し合っていたので、その音を頼りに乾いている葉、ばをどんどん集め、すぐに大きな袋がいっぱいになりました。最後に「おいしいやきいもができますように...」とお参りもして帰りました。

翌日、小さい子たちに「ありがとう」とお礼を言われると照れくさそうに、でも少し得意気な表情で「どういたしまして」と言う年長児の姿が印象的でした。人のために何かをするって、とても気持ちがいいことですね♡ 年長さんありがとう!!



愛育園祭の発表を通して感じたこと

園内保育補助 高橋清子

「♪おおきなかぶをぬこう うんとこしょ どっこいしょ」愛育園祭で色とりどりの忍者の衣装を着た幼児さんの声が、お客さんいっぱいの体育館に響き渡りました。この『おおきなかぶ』の劇では子ども達がちびっ子忍者になり、大きなかぶをぬくために様々な修行をします。その修行はでんぐり返し、平均台渡りなど体育遊びを取り入れたものでした。

愛育園祭一ヶ月前から始めた園内保育での練習では、張り切ってできる日もあれば、なかなか気分が乗らず、始めてみても集中力が続かない日もありました。それでも「どうやったらお客さんに楽しんでもらえるかなあ」とみんなで考え、「しっかり前を向いて、大きな声で返事をする!」ということ意識して練習できるようになりました。また、平均台渡りでは途中で何度か落ちても「もうやりたくない…」と諦める子は一人もいませんでした。腕を伸ばして平均台の端を目指し、集中して歩く姿には、がんばる力がついてきたなあと感じました。そしていつの間にか「あと〇日で愛育園祭だね!」とカレンダーを見て心待ちにするようになりました。

当日はたくさんのお客さんの姿に、嬉しくもあり緊張もあったと思いますが、一人一人が技を披露し忍者の決めポーズをするたびに、会場から温かい拍手をいただいたおかげで、子ども達の自信につながったような気がします。愛育園祭の行事を通して、一人一人がまた一つ成長できたことを、今後の園内保育でも生かしていけるように応援していこうと思います。

七五三

保育士 上原美恵子

今年は5歳の男の子2名、小学1年生の女の子3名が七五三のお祝いをしました。幸い3年ほど前に衣装のご寄付を頂いてありましたので、特に女の子達は数日前から着物を選んだり、体格に合わせて肩上げをしたりとお祝い当日の日を楽しみにしていました。11月8日いよいよ支度が始まりました。女の子達は髪飾りを着けただけでも「可愛い」と大はしゃぎです。慣れない着物でしたがそこは晴れ姿に向けてとてもお利口さんに着付けてもらっていました。ひもや帯を締める時も苦しくないかなと確かめながら進めていきました。

きらきらの小物も沢山つけてどの子もお姫様気分のような様子でした。男の子たちもスーツにネクタイをつけてもらい誇らしげにしていました。支度ができたところで象山神社に参拝に行きました。こ



れからも健やかに成長できるように皆でお参りをしました。美しく紅葉した木々をバックに沢山写真を撮りました。一旦園に戻り、着替えを済ませてからお楽しみの昼食会に出かけました。場所は子ども達が大好きな回転寿司です。思い思いに好きなお寿司やデザートを沢山食べて皆満足そうでした。晴天にも恵まれて、楽しいお祝いでした。これからは子ども達の健康と安全を願ってやまないと思います。

これからは子ども達の健康と安全を心から願った一日でした。

あおぞらホームだより

保育士 石黒 玄章

朝晩はめっきり寒くなり、子供たちの起床も布団から出るのが厳しい時節となりましたが、あおぞらホームの子供たちは元気に過ごしています。

秋の行事は運動会や愛育園祭など職員と子供と一緒に一つ一つの物を作り上げる中で、大いなる成果を上げました。子供たちが自信を付けて来ている様子がひしひしと伝わってきます。そんな中、先月は中高生の子供たちが園長先生の出張の間、自主的に雑巾掛けをしようと声が上がりました。強制で無いにも関わらず、ほとんどの子供が毎朝30分早く起き園内の掃除を行いました。掃除を行うことで、毎朝の園長先生のご苦労が解ったということと、集団であればその力が遺憾無く発揮され、あっという間に綺麗になる園内に、心から喜んでいる様子が印象的でした。

一つ一つの事を行うには、一人で行うより集団で行うことに大きな力が生かされることを改めて気付かされる出来事でした。今後も益々この力を発揮出来るよう職員と子供と一緒に歩いて行きたいと思います。

まごころホーム

保育士 土屋海都

朝晩の冷え込みが増し子ども達は朝布団から出るのが一苦労なようです。11月は大きな行事が2つあり幼児、小学生、中高生それぞれの所で活躍していました。幼児さんは大勢の前での発表とても緊張したと思いますが、見てくれる人が喜んでくれるように、自分達のかっこいい姿を見てもらいたいという気持ちで元気一杯頑張りました。小学生も学校から帰ってきたら遊ぶ間もなく練習という毎日が続きましたが文句を言うことなく真剣にやっていました。中高生も時間を見つけ少ない時間の中で自分に出来る精一杯努力していました。一人ひとりが一所懸命取り組み、色々なことを経験し、達成し成長した姿が沢山見られました。私自身ももっとみんなと頑張ろうという気持ちになりました。この頑張る気持ちを行事だけでなく日々の生活やそれぞれの目標、今向き合わなくてはいけないことに目を逸らさず前進していったほしいと思います。

